

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177500170		
法人名	株式会社ハヤシ環境		
事業所名	グループホームカルミア さくらユニット		
所在地	滝川市東町7丁目219番地6		
自己評価作成日	平成23年10月6日	評価結果市町村受理日	平成23年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

カルミアホールからいつも入居者は田園や山々を眺め季節の移り代わりを楽しんでいる。居室は10畳と広いクローゼットもありテレビ・ベット・冷蔵庫・洗面台も備わっています。居室が広くホーム内の採光性が良い為、入居者家族からも高い評価をいただいています。又、AEDを設置し緊急時の対応ができるよう職員が講習を受け地域の人たちにもAED設置のホームとして紹介しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0177500170&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年11月7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、平屋建てで広々としたスペースがあり、ユニット間の共用スペースや家族が宿泊できる部屋など、利用者と家族の利便性を考慮して設計している。利用者の居室はテレビ・冷蔵庫・ベット・洗面台・クローゼットを備え付けており、プライバシーや利用開始前の生活習慣の継続などに配慮している。また、昨年末に車いすで乗降できる福祉車両を導入し、外出支援の幅が広がったことにより利用者と家族に好評を得ている。地域の集まりに使用してもらえる会議室やAEDの設置もしており、事業所の持つ認知症の知識や技術、設備や救命機器を広く地域に還元する仕組みがある。職員が利用者のケアにゆったりと向き合えるよう働きやすい環境を整備するように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各ユニット玄関に掲げ、夜勤者から日勤者へ送りの終了後、復唱している。	職員と管理者が共同で作成したケア理念を事業所玄関に掲げている。4つの項目にまとめた理念はカードサイズで携帯し、職員のケアの基本として実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、行事のあるときは地域の人にお手伝いしていただき又、町内の理容院を利用している。	町内会に参加し、事業所の広報「カルミア新聞」を回覧板で回している。また、事業所にAEDを設置していることなどを地域に知らせている。事業所の行事に町内会の婦人部からの参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門部会で情報の交換を行ったり勉強会にも参加している。高齢者の状態に見合った施設の空き状況等も確認している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況報告及び事例を提供し、検討して頂きアドバイス等についてはケアプラン内容や職員ケア指導時の参考としている。	運営推進会議は年3回の開催にとどまっている。事業所の課題などについて話し合っているが、家族の参加がなく、運営推進会議の委員が固定化されており議事録も公開されていない。	参加を広く呼びかけるとともに、参加できない家族からの意見収集の仕組みの検討を期待する。議事録を家族に送付するなど、運営推進会議を開かれたものにする工夫が望まれる。また、開催頻度についても事業所の現状を考慮しながら見直しを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度の入居者状況の報告や入居者の身体状況・認知症の進行に変化が見られる場合は、家族と相談し介護度の区分変更等その方が優位になるよう市町村と連絡し合っている。	事故があった場合や毎月の利用者状況について報告し、事業所の運営が適切に行えるように連携している。滝川市のケアマネジャー部会への参加などで、市と同業者との情報交換を行って協力関係づくりを進めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の安全を守る必要がある方に拘束をせざる得ない実情があるが、必要時とし一時的かつ時間も短縮している。	身体拘束検討委員会があり、毎月身体拘束が必要な場合の検討を行っている。身体拘束の排除のためのマニュアルを整備し、職員に配布している。玄関の施錠は行っておらず、センサーの設置と職員の見守りで利用者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会参加を申し込み極力参加する支援を行っている。又、入浴時等に体の傷やあざ等についても注意して観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当になる利用者もいないので実績はないが学ぶ機会があれば是非参加したい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約関係書類については、利用者(状態による)と家族に説明し不明な点についてはいつでも対応し返答している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時やケアプラン説明時に家族からの意見を聴く機会を確保改善の必要な件については随時対応している。	事業所は利用者と家族の状況を把握し、それぞれの立場に立って考えるようにしている。面会時などに家族と話し、そこから意向を汲み取って対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度責任者会議を開催し意見や提案事項を話し合い提案事項については謙虚に受け止めている。	職員が学びたい内容の研修の企画を行ったり、キャリアパス制度や就業規則で昇給制度を定めるなど、職員が働きやすい職場環境に配慮している。また、資格取得のために事業所からの支援を行うなど、職員の仕事への向上心を育てるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数に応じ職員を必要と思われる研修会に参加させている。そのために勤務調整を行い研修費用についても事業所負担としている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を回覧し参加職員については、参加料を事業所負担としている。又、内部研修についても職員よりアンケートをとり職員の希望する研修を実施している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	親しくしているグループホームとは互いのホームの問題点や改善点など必要に応じて連絡を取り合ったり訪問したりして共有している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に事前面接調査やご本人と面談をし困っていることや不安なこと等、話しやすい雰囲気をつくり傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に相談に見えたとき、家族の心意を受け止め、訴えのあることに関して、できる対応や次のステップの切り替え等について柔軟な対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人の現在の状況を把握し必要に応じては市町村と連絡や意見を聞き調整しながら支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重しながらできる方については一緒に掃除や上げ膳下善食事づくりなどを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診はなるべく家族の同行をお願いし必要時は職員と一緒に受診し、行事等についても参加を促し参加して頂いている。電話で話したりする支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理美容院に送迎したり、外出の時に必要な方については車椅子等を貸し出し使用してもらっている。	近隣からの利用者が多く、古くからの友人が遊びに来た際にもてなしたり、電話や手紙の支援を行っている。また、宗教など利用者の大切にしている関係や習慣が継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士での関わりは少ないが職員が間に入りフォローしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な取り組みは行っていないが、家族の相談・要望があれば対応している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人に職員の担当者を決め利用者より希望や意向を聞きモニタリング時に検討している。	利用者ごとに職員が担当制をとっており、きめ細かな意向の把握や、言葉にできない場合でもセンター方式のアセスメントを活用するなど、利用者本位の気持ちの理解に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前の事前調査や他の関係機関からの情報を提供してもらっている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムをアセスメントシートに記入し把握をしている。生活・心理面でのできる事できないことを見極め本人の全体姿の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式C、Dを用い本人の思いや意向を把握し課題を見つけている。家族の要望も取り入れながら月1度のスタッフ会議に於いてモニタリングを行っている。	利用者によって6ヶ月、または、3～4ヶ月ごとに介護計画を作成している。職員全員が計画作成に参加し、毎月のミーティング時にユニットごとに計画作成について話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を個別に記録し変化のあった場合や緊急性のあるものについては即対応し随時職員間で報告し実践している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診送迎・理髪店の送迎・日用品の購入支援を行っている。又、交通アクセスの不便な家族については送迎を行うこともある。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の時など地域の婦人部の方々に協力要請をしたり、出張理容の支援を行って頂いている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応による受診の時は、経過報告書に職員が記入し報告しかかりつけ医の意見を頂いたり、家族受診の際も特殊車両の必要の際は送迎を行っている。	利用開始前からの主治医の受診支援の際には、日々の生活の様子を記載したものを医師に報告し、適切な医療が受けられるように配慮している。また、家族と職員と一緒に受診に付き添うこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は地域包括支援センターや病院看護師や医師の支援を受けながら利用者の日常健康管理努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の健康状態や支援内容に関する情報を医療機関に提供し、入院当初は定期的に職員が見舞いに行き様子を見るようにしている。又、退院時には医療機関からの情報提供を受け退院後の支援に結びつけるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームとしてのできる事は限られているが、最終的には本人の安全又は家族の安心のために病院や施設との連絡調整をし万事に備えている。	指針を作成し、利用開始時に同意書を交わしている。必要時には家族の意向を踏まえながら、適切な医療が提供できる施設等への移行ができるように運営推進会議に医療関係者が参加するなど、日ごろから協力関係を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故については、滝川消防署の救命士を講師に招き職員研修を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難救出訓練を実施している。運営委員会に於いても議題にしているが、環境的にも難しい状況である。	年2回避難訓練を実施するとともに、運営推進会議でも地域の協力を求めているが実現が難しい状況にある。防火点検の実施やAEDの設置、職員研修など、事業所としてできる自衛策を進めている。	火災時の地域等との協力体制の構築が課題となっているので、地域の理解を求める活動を引き続き行うことが望まれる。事業所として、自治体に災害備蓄がないことなどを踏まえ、利用者の安全について検討、備蓄品等の準備を進めることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームで作成した入居者との接し方10ヶ条を職員に配布し周知させ常にうやまう気持ち忘れず子供扱いしたような言葉掛けをすることのないよう努めている。	利用者に接する際の心得を記載した「接し方10ヶ条」とプライバシー確保のためのマニュアルを職員に配布し、利用者一人ひとりに対しての接遇に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の起きて着替える際、その日に着る服を2着出しどちらを着るか選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合が優先している気はするが、極力その人の体調に配慮しながらその日その時の気持ちを推察し言葉掛けをし希望にそうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の時など服を選んだり、お化粧をしてあげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、入居者さんには野菜の皮むきや野菜を切ってもらったりしている。スタッフも同じテーブルに座り一緒に食事を摂っている。	季節感を感じるメニューを提供するようにしており、利用者のリクエストにより、毎日臨機応変に食事を提供している。外食に出かけたり、近くの食堂から出前を取ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューも重ならないよう気をつけている。水分は1日1000CC以上取るようにし体重も月2回測定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどの利用者に食後の歯磨きや義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便意・尿意のない利用者さんには排泄サイクルでトイレに誘導し、できるだけトイレで排泄できる支援をお実施している。又、伝えられない利用者には排泄サインによりトイレ誘導している。	利用者の個別の排泄パターンを把握し、トイレへの誘導を行ったり、仕草やサインから適切に支援している。おむつやパッドなどを見えないところに収納し、プライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操に参加していただき軽い運動を行っている。繊維質の食材を取り入れたり水分も多めに摂るよう促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全に入浴していただく為には職員の都合の良い時間帯となっているが、本人が希望されれば曜日に関係なく入浴していただいている。	週3回の入浴を基本とし、希望がある場合には、その都度応じるようにしている。入浴の拒否がある場合には、来訪した家族等と共に声かけするなど、本人が気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーにすわりテレビを見たり、寝付かれない人には医師と相談し軽い眠剤を定期又は頓服で処方してもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を利用者別に分けてファイルし職員全員がすぐ調べられるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員にはあまりできていないが、昔していた編み物をされたり、懐メロのテレビ・継続的なテレビドラマを楽しんで頂く支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族が積極的に外出に誘ってくれている。利用者の希望ではないが職員も積極的にお誘いし季節の花等を見学に行っている。	中庭には東屋やバードテーブルがあり、ユニット間に設けられた共用スペースから庭に出られるようになっている。天気の良い日には散歩に出かけたり、菜園で野菜づくりも行っている。車いすの貸し出しを行うなど、利用者が家族と一緒に出かけるための支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多少のお金を持参している人はほとんどいませんが、以前は外出時に菓子類を購入される方も居たので職員が支払いのやり取りを見守っていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙が来たときなど葉書を購入し手紙を書く支援を行ったり、電話の取次ぎも行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓し季節のお花を楽しんでいただいたり、季節に沿った飾りものを飾っている。(クリスマスツリー・しめ縄・雛人形等)	外出行事などの際の利用者の笑顔のあふれる写真や作品を掲示し、家庭的な温かい雰囲気が感じられる。温度や湿度を調整し、快適に保っている。居間は広々としており、利用者が趣味の編み物や卓球をするなど、思い思いに過ごすことができる。ユニット間の共用スペースなども活用し、利用者の気分よのびのび過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内はいろんな角度にソファを置きそれぞれの入居者が座りやすい場所に座り休んでいただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には使い慣れた物や自分のお部屋にあった時計や衣装箱などを持ってきていただき環境が変わることによる精神的な混乱を少しでも緩和できればと思い願っている。	10畳の居室にはクローゼットがあり、十分な収納スペースがあるためすっきりと整頓されており、利用者の人柄や趣味がわかる飾りつけをしている。のんびりと趣味活動を行ったり、家族や友人と居室でゆったり過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等をトイレ・廊下・浴室・ホールに設置し台所は高さがあるため使用しづらいので食卓テーブルを使い食事の準備を行っている。		